

分科会案内

分科会A

【テーマ】

やってみよう！図書館での医療・健康情報サービス ～業務の基本を学ぶ・拓げる～

【要 旨】

平成18年3月、文部科学省は「これからの図書館像－地域を支える情報拠点をめざして－（報告）」の中で、地域や住民に対する課題解決支援の一つとして、公共図書館でも医療・健康情報サービスを展開するよう推奨した。しかし、専門性の高さを理由に消極的な姿勢を示してきた公共図書館が多いことから、問い合わせや協力要請がJMLAに寄せられるようになった。これを受け、平成22年6月、JMLA教育・研究委員会の下部組織として「健康情報サービス研修ワーキンググループ」が発足した。公共図書館だけでなく、医療系図書館を含むあらゆる図書館が、それぞれの立場で医療・健康情報サービスを実践する際に活用できる研修プログラムの構築を目標として、2年間の活動を行った。その過程においては、鳥取県、岐阜県、宮崎県での研修実施（JMLA受託事業）を経験し、検討を重ねてきた。また、図書館員向けテキストの執筆にも取り組み、2012年5月には『やってみよう！図書館での医療・健康情報サービス』の発行を予定している。

分科会Aでは、ワーキンググループが考えた2日間コースの講義を、ダイジェスト版で実施する。講義を体験していただいた上で、プログラムの内容について、様々な立場の方から意見を伺う機会としたい。非会員の参加も歓迎する。

【司 会】

愛知医科大学医学情報センター 市川美智子氏

【講 師】

東邦大学医学メディアセンター 牛澤典子氏 「ワーキンググループ活動報告」

浦安市立図書館 柚木 聖氏 「医療・健康情報の現状」

静岡県立こども病院図書室 塚田薫代氏 「選書」

相模原市立図書館 高橋宏美氏 「レファレンス」

杏林大学医学図書館 諏訪部直子氏 「医療・健康情報の評価」

※講師はいずれも、NPO 法人日本医学図書館協会健康情報研修ワーキンググループ委員
柚木、高橋は（社）日本図書館協会健康情報委員会委員でもある

【コーディネーター】愛知医科大学医学情報センター 市川美智子氏

テキスト『やってみよう！図書館での医療・健康情報サービス』を教材として使用し、当日は資料を配布いたしません。会場でテキストを販売しますので、必要な方はお買い求めください。1,000円～2,000円の予定です。*分科会参加費とは別途

分科会B

【テーマ】「加速する研究ー日本と韓国、支援のための3つの視点ー」

【要旨】日本において、学術研究機関は所属する教員の文献の電子化を推進し学内外に発信しはじめ、公的機関は学術論文の積極的な電子化促進を行っているなど、近年めざましい努力が各所で行われているが、こういった、現場の担当者の相当な苦勞によって研究情報が潤沢に流通し、イノベーションを興すような研究を加速している状況にある。

その成果として、機関リポジトリは現在 153 機関（平成 23 年 12 月現在）で構築されており、国別の機関数では、世界のトップクラスにあるが、学術情報流通を改革すると同時に大学等における教育研究成果の発信を実現するためにも大きな役割を果たしている。また、J-STAGE は、科学技術情報の電子化促進により、我が国の科学技術情報の発信と流通の迅速化と国際化を図っており、現在 806 の学術雑誌を電子化し、38 万件以上の論文フルテキストを提供している。

日本医学図書館協会や日本薬学図書館協議会は各勉強会や分科会において電子リソースの管理やこれからの電子メディアについて話題として取り上げてきた。今回はさらに発展し、電子化促進をまさにやっている現場の方針と苦悩をディスカッションすることによって、参加者の知見を拓げていく。

一方、隣国である韓国に目を向けてみると、各機関が共同し、データベース（約 70 種）の共同利用や統合検索が可能な「国家電子図書館」が構築され、公共図書館で比較的安価に電子化論文を手に入れられる体制となっている。また、国の行政機関が一丸となって取り組み、私的教育の負担軽減や教育に関する地域間格差の解消が必要であるという認識が浸透しているため、豊富な教育学術情報が整備されており学ぶべき所も多い。今回は研究を支援するための取り組みとして、論文作成支援サービスの事例を報告してもらおう。研究発信を支援する 3 つの取り組みから日本の現状を再確認したい。

なお、この分科会は、（独）科学技術振興機構との共催で開催します。

【座長】（独）科学技術振興機構 知識基盤情報部 副調査役 加藤齊史氏

【話題提供者】

韓国医学図書館協議会 「最新の論文作成支援サービス（仮題）」

浜松医科大学 学術情報課長 加藤晃一氏

「機関リポジトリを使った学術情報発信の現状と課題（仮題）」

（独）科学技術振興機構 知識基盤情報部 副調査役 久保田壮一氏

「日本の学術雑誌電子化と配信の現状と課題」JSTAGE と JaLC を中心に

【コーディネーター】科学技術振興機構 情報提供部 火口正芳氏

分科会C

【テーマ】 医歯薬分野における日本型電子出版の課題

【要旨】 2011年に日本医書出版協会と日本医学図書館協会は継続的に話し合いを持つことに合意し、両者で解決すべき問題や共同で取り組む事業等の洗い出しを進めています。昨年9月に開催された『オンラインリソースのゆくえ』と題する日本医学図書館協会第82回総会分科会は、その活動の最初の成果といえるでしょう。

海外、特にアメリカにおける書籍の電子化、電子出版と販売、読書専用端末やタブレット端末は驚異的な速度で拡大しています。音楽コンテンツ市場を変えてしまったA社は次のターゲットに教科書市場を挙げているとの報道も耳にしました。言語、出版文化の違いを盾に、日本は何時までも電子出版とその流通で鎖国を続けることはできません。

今、急がれるのは、海外からの電子出版という脅威を座して待つのではなく、国内の出版社と図書館が手を組み、日本の出版社と利用者のための電子出版とサービスを整備することです。この様な状況で、国内の電子出版を応援するため、当分科会を企画しました。国内の医歯薬分野の電子出版について、出版社と図書館の二つの立場から、技術的な問題（フォーマット、利用環境、DRM）、契約形態、価格や予算問題、対象コンテンツ、利用範囲、複写・印刷・ILL等の話題提供をいただき、その後分科会参加者を含めた意見交換をとおして、情報・状況の共有、問題の把握と解決策を模索します。

なお、この分科会は、日本薬学図書館協議会との共催で開催します。

【座長】 株式会社サンメディア常務取締役 松下 茂氏

【話題提供者】 株式会社医学書院取締役副社長 金原 俊氏
東邦大学習志野メディアセンター 谷澤滋生氏

【コメンテーター】 関西医科大学教授 山田久夫氏

【コーディネーター】 東邦大学習志野メディアセンター 谷澤滋生氏